

6. 貨幣(2)

貨幣の機能

今回の課題

- ✓ 貨幣のさまざまな機能を明らかにする
- ✓ 機能を果たす際に貨幣が受け取るさまざまな“ありかた”を明らかにする
- ✓ 貨幣機能の違いの原因になる、市場経済の場面を明らかにする

今回の内容

- はじめに
- 価値尺度
- 流通手段
- 蓄蔵貨幣
- 支払手段
- 世界貨幣

貨幣が登場する二つの段階

- 値札を付ける際に貨幣が登場
 - “100円”とプリントされた値札において、100円は貨幣の量
- 代金としてゲンナマを手に入れる際に貨幣が登場
 - レジで客が支払う100円玉はまぎれもない貨幣

貨幣のグローバルなパワー

- 商品のパワーは貨幣のパワーに
 - 貨幣をもっていれば、なんでも買える
- ⇕ これにたいして
- 商品をもっている、売れるとはかぎらない

1. 価値尺度

- 値札をつける場合
- 価値尺度＝価値の“ものさし”
 - 価値の大きさを測り、較べる
- 価格＝貨幣による個々の商品の価値表現
 - 価格が価値(生産コスト)から離れることによって、需給の調節が実現される
 - 価値とは無関係に、なんにでも価格をつけることができる

持ち手変換と形態変換

- 持ち手変換
 - 有用物が持ち手をチェンジ
- 形態変換
 - 価値が姿をチェンジ

2. 流通手段

- 現金売買の場合
 - 流通手段
 - 全体としての商品流通を媒介
 - 市場社会における物質代謝の社会的な運営を表す
 - 商品の流れと貨幣の流れは違う
 - 流通手段としての貨幣は流通に留まり続ける
 - “カネは天下の回り物”

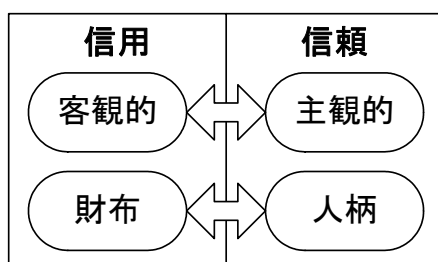
3. 価値の蓄蔵

- 流通から引き上げられた場合
 - 蓄蔵貨幣
 - = 価値のカタマリを手元にとっておく
 - 流通手段
 - 財布の中
 - 蓄蔵貨幣
 - タンスの中

現金売買と掛売買

1. 現金売買
 - = 商品譲渡と同時に貨幣支払
2. 掛売買
 - = 商品譲渡の後で貨幣支払
 - = 信用売買

信用と信頼



4. 支払手段

- 掛売買(信用売買)の場合
 - 支払手段
 - = 商品譲渡の後で残った債権・債務関係を解消
 - たくさんの掛売買がからみあうようになる
 - 社会的リスクの増大
 - 支払手段の節約